



『shining ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining ほいく』を活用していただけたら幸いです。

今号の shining ほいくでは、一つのテーマに沿って継続的に保育の研究をし、専門家の助言や指導をうけ、保育の資質の向上を図ることをねらいとして取り組んでいる継続研究研修（2ヵ年）の中間報告会の様子をお知らせ致します。

保育の質向上プロジェクト研修報告会

講師 十文字女子大学教授 向井美穂先生
東京家政大学准教授 野口隆子先生

ときわ台保育園



ときわ台保育園 テーマ『子どもが安心してじっくり遊べる環境づくり』

園内継続研究を進めるにあたり、今の保育を振り返りながら何について研究していくかを話し合うと「環境」についての意見が多数出てきました。「ホールの一隅に4歳児室がある」「廊下がない」など使いづらい構造の園舎。子どもが落ち着いて遊べる環境に変えていきたい！ということで、テーマを「子どもがじっくり遊べる環境づくり」、サブテーマを「困りごと 保育のいいね！に変えてみよう」に決め、取り組みました。

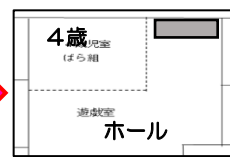
困りごと (before)

- ・廊下がなく、どこ行くにもホールが通過点。
- ・人の行き来が多く、雑音も絶えないホール。
- ・ホールの一隅にある4歳児室が落ち着かない。



いいね! (after)

- ・仕切り棚を可動式に。コーナー設置が容易に。
- ・コーナーを広げることで室内遊びも落ち着く。
- ・ホールでの活動がしやすく、遊びが広がった。



【職員間で共通認識を持つために】

「心を揺さぶられた」子どもの場面を出し合い、保育のマップ化作成や「子どもが主体的に遊ぶとはどういうことなのか」をワークで話し合うなど様々なツールを使いながらお互いの保育観を知る機会を作りました。



「困りごと 保育のいいね！に変えてみよう」ということで、園内の様々な場所の環境改善に取り組んできました。環境を変えてきたことで、子どもたちが自分で場所を選び、好きな遊びを楽しむ姿が増えてきました。子どもが主体的になるためには「子どもが活動したくなる環境」「子どもが利用しやすい環境」「子どもの活動過程を支える環境」「活動の軌跡や足跡が見える環境」の4つの視点が大切ということを野口先生に教えていただきました。4つの視点を意識しながら今後も保育環境を整え、その中で子どもたちの遊びの様子、変化を捉え、事例を基に振り返りを行いながら考察を重ねていきたいと思っております。

高島平すみれ保育園

《テーマの設定》

高島平すみれ保育園の保育について、職員で話し合いを行いました。その中で挙がったのは、3歳児クラスが2歳児クラスの時から課題となっていた要支援児を含めた保育でした。要支援児以外にも、個別の対応が必要なお子さんも多く試行錯誤をしながらの保育を進めていました。園内継続研究研修を受けるにあたり、インクルーシブ保育について学び取り組んでいくことにしました。

《これまでの取り組み》

研修1年目の今年度は、3歳児クラスを対象として職員全員が3歳児クラスに交代で入りエピソード記録を取ることで、3歳児クラスの保育を知り良いところや改善点、課題の共通認識を行っていきました。向井先生から生活面や遊び、要支援児への対応などアドバイスをいただき、一人一人の好きな遊びに着目し、一緒に遊ぶことで仲間意識を高めていくこと、要支援児もその中に加わることで楽しさを共有していくことを実践してきました。



ねがいのき



こびとさがし

《今後に向けて》

中間発表を終えて見えてきた課題

- ・3歳児クラスから園全体に広げていきたい
- ・園での楽しさをもっと家庭に伝えたい

今後も園全体で課題に取り組み、保育の質の向上を目指していきたいと思います。

受講して学んだこと・感じたこと



- ・子どもたちが、安心して遊びに没頭する環境設定は出来ているのか、要支援児を含めて子ども一人ひとりが楽しめる保育を展開出来ているのか、自分自身の保育を見つめるきっかけとなった。
- ・「子どもが安心してじっくり遊べる環境づくり」についての中間発表では、職員間で話し合って園内環境の改善を図ることで、子どもたちが落ち着いて遊べるようになったり、遊びが発展したりと環境の大切さを確認することが出来た。
- ・困りごとを見える化し、強みに変えていくという視点が新鮮だった。担任間だけで完結せず、園の問題として考えていくことが大切だと改めて感じた。



これからの活用

- ・保育の上での環境設定の大切さを改めて実感したので、自分のクラスも子どもの動線を意識して環境を見直していきたい。
- ・課題、問題点、困りごとばかりが目についてしまいがちだが、“子どもって面白い”と保育者自身が保育を面白がることのできる保育者集団を目指して園内研修等を進めていきたい。